

弓弦羽神社の神幸祭

御鳳輦渡御華やかに

東灘区御影郡家2の弓弦羽神社で16日、3年に1度の「神幸祭」があり、神様が氏子地区を見て回るとされる「御鳳輦渡御」が催された。3基のだんじりを従えた御鳳輦が各地区を巡行し、愛らしい稚児行列も後に続いた。

(長谷部崇)



3年に1度 稚児ら400人が行列

東灘区 御鳳輦は、屋形の上に鳳凰を飾った輿をいう。渡御はかつて、5月の春祭りで毎年行っていたが、甚大な被害を受けた阪神・淡路大震災後は秋に移行し、回数を減らした。

氏子の8地区が持ち回りで御鳳輦を担ぎ、今回は西御影地区が担当。先導や後続のだんじりが勇ましい太鼓やかねを響かせ、約400人の行列が、ゆつくりと各地区を練り歩いた。

東灘区御影本町6の御旅所を過ぎた後は、装束に天冠や烏帽子で着飾った子どもたちも行列に「お供」。近くの高田淳子さん(36)は、長女の美聡ちゃん(3)が参加し「かわいらしい衣装でご機嫌のよう。たくさん歩いたね」と話した。

御鳳輦の後に続く装束姿の子どもら―東灘区内